

新臨床研修医と沖縄県医師会との懇親会

～琉球大学医学部附属病院及びRyu MIC研修医～

理事 玉井 修



平成19年4月2日（月）午後6時より琉球大学医学部がじゅまる会館において琉球大学医学部附属病院新臨床研修医およびRyuMIC (Ryukyu Medical Interactive Collaboration) 研修医、沖縄県医師会との懇親会が開催されました。懇親会に先立ち、宮城信雄会長から「医師会の役割」に関して、また、真栄田篤彦常任理事より「医師会の事業・医師賠償責任保険」に関して研修医に対しレクチャーを行いました。研修医の皆さんは身の引き締まる思いをされたと思います。

懇親会の司会は、私玉井が務めました。私自身、平成2年に琉球大学医学部附属病院第一外科に入局し、研修医生活を送った先輩として、どうしても一言後輩の研修医に言っておきたい事がありました。飲酒運転撲滅が叫ばれている昨今、懇親会という晴れやかな席でも飲酒運転は厳禁であること。また、社会人として法令遵守は当然であることです。医師国家試験合格を受けて今回参加した研修医は31名、どの顔も



沖縄県医師会 宮城信雄会長

若さに溢れ、これからの未来に対する希望に満ちています。貴重な医師としての自分を大切にして欲しいとの老婆心から先ずはそのあたりを研修医に希望いたしました。

した。

まず、宮城信雄沖縄県医師会長のご挨拶から始まりました。宮城会長は、初期研修において医師としてどのように歩み出すかが非常に重要であること、またその意味において初期研修の中で優れた人と出会うことがいかに大切であるか。患者さんとの関わり方に関しては、インフォームド・コンセントの重要性について話され、実り多い研修を修め、沖縄県の医療を担う立派な医師になって欲しいとの愛情溢れるお話をされました。



琉球大学医学部附属病院
須加原一博副院長

続いて、琉球大学医学部附属病院副院長の須加原一博先生よりご挨拶を頂きました。ご挨拶の中で須加原先生は、臨床研修において琉球大学医学部附属病院、沖

縄県医師会、県立病院、各協力医療機関の連携が不可欠であることを強調されました。研修医に対しては、医師としてスタートを切った今からは、これまでの医学生時代の成績などは関係なく、いかに真剣に患者さんに接するかが重要であるとお話して頂きました。また、「平静の心」の著者で有名なウィリアム・オスラー氏の「医師にとって最高の教育者は患者自身である」という言葉を引用し、患者さんから学ぶことに心して研修に励んで欲しい、立派な医師になって沖縄の医療に貢献して欲しいとお話になりました。

続いて、琉球大学医学部附属病院研修医を代表して宮城拓也先生にご挨拶を頂きました。新臨床研修医制度も4年目を迎え、多くの情報、多くの選択肢からRyuMICを選びました、RyuMICこそが自分にとって有益な研修ができる場所だと思っています。私たちも日々努力して参りますので、ローテーションの際には厳しくも優しいご指導、ご鞭撻をお願いしますと、非常に落ち着いたご挨拶でした。

続いて、琉球大学医学部長の坂梨又郎先生より乾杯のご挨拶を頂きました。医師としてスタートを切ったからには、もうごちそうを口まで運んでもらうまで待つのではなく、自分で行って取って食べるという行動をとって頂きたい。学生時代にはどうしても、「与えられればやる」という部分があったかも知れません。医師という仕事は、皆さんが一生の仕事としてやって行



琉球大学医学部
坂梨又郎医学部長

く訳ですから、指示待ちは完全に卒業をしてほしいと思います。研修中にはいろいろな問題が生じますが、自分自身がその問題をどう活用するかによって、この

二年間で差がついてしまう事は間違いないと思います。今日は、門出の日でありますので、今後心を活かし、多くの先輩方が温かく見守って下さっているこの有り難い状況を決して無にしないよう、おおいに頑張りたいと思います。医師会の先生方へのお礼が最後になって恐縮ではございますが、よろしくご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げますと、研修医へ餞の言葉を頂き、乾杯！の御発声のあと、懇談に移りました。

琉球大学医学部附属病院新臨床研修医21名とRyuMIC関係者、琉球大学医学部附属病院の指導にあたる先生方も多数参加し、総勢103名と盛会でした。医師不足の中、多忙を極める日常診療をこなしつつ、指導医として研修医の指導に当たっている多くの先生方と率直な意見交換ができました。卒業後直ぐに入局という形がなくなり、身内意識を持ちにくい研修医との関わりの中、大きな視点に立って、熱い情熱を持って日々研修医の指導に当たっている事をお聞きし、ただ頭が下がる思いが致しました。新臨床研修医制度が始まって4年が経過し、医師の育成は、どこか大きな施設に任せておくのではなく、自分のできる事があればほんの少しでも良いから関わる時代に変化していると認識させられた懇親会でした。

当日は3人の新研修医にインタビューをしましたので、その内容を以下に掲載します。



研修医：宮城拓也先生

質問1. 医師を目指した理由についてお聞かせ下さい。

小児の頃に骨腫瘍を患ったため。

質問2. 研修施設として琉球大学医学部附属病院を選択された理由をお聞かせ下さい。

自分の目標のために必要なことを最も修得しやすいと思ったから。

質問3. ご自分の将来をどのように見えていますか？将来像についてお聞かせ下さい。

研究職

質問4. 現時点で将来目指している科がありましたら教えてください。

外科系



研修医：服部真歩先生

質問1. 医師を目指した理由についてお聞かせ下さい。

純粹に、困っている人を助ける仕事はいいなと思ったからです。

健康であることは、本当に幸せなことで、そのお手伝いをする仕事は大変ですが、やりがいがあると思います。

質問2. 研修施設として琉球大学医学部附属病院を選択された理由をお聞かせ下さい。

病院見学をした際、研修医の先生が、上の先生方に見守られながら腹腔穿刺をする姿を見ました。こんなに丁寧に、やさしく研修医を指導していただける病院はないと思い決めました。

質問3. ご自分の将来をどのように見えていますか？将来像についてお聞かせ下さい。

自分の将来について深く考えたことはないのですが、何を専門として進むにせよ、患者さんの気持ちをいつも考えられる医師になりたいです。

質問4. 現時点で将来目指している科がありましたら教えてください。

まだありません。研修中に考えるつもりですが、在宅医療や、リハビリ、ホスピスケアに興味があります。



研修医：高松岳矢先生

質問1. 医師を目指した理由についてお聞かせ下さい。

高校生の時に1つ技術を身につけて、世界中どこでも役に立つ人になろうと思ったからです。(当時は、その意味では、医師でなくても良かった。)

質問2. 研修施設として琉球大学医学部附属病院を選択された理由をお聞かせ下さい。

琉大卒業で、琉球大学、沖縄県に愛着があり、後輩も友人も多いので、楽しく研修ができると思ったからです。

質問3. ご自分の将来をどのように見えていますか？将来像についてお聞かせ下さい。

将来像は1つでなく、考えながら進んでいこうと思っていますが、家族や友人との時間を大事にしつつ、医師として、自分の能力を開花させ社会に貢献したいです。家族と友人と楽しければうまくいくと思っています。

質問4. 現時点で将来目指している科がありましたら教えてください。

現時点では、救急、内科、精神科などを考えています。ローテーションしながら科、自分にあった病院（特定機能、地方、クリニックなど）考えたいと思っています。

第2回那覇市立病院前期臨床研修修了証交付式 及び第4回臨床研修医採用辞令交付式



那覇市立病院 島袋 洋

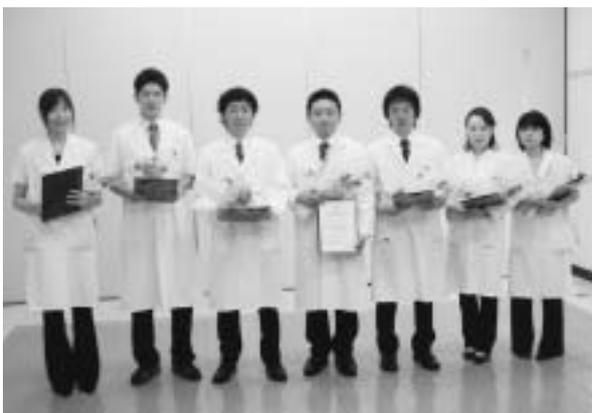
新臨床研修医制度発足から早4年が経ちました。全国各地の臨床研修医指定病院から、昨年度より後期研修医（専修医）として各地の医療機関に巣立って行きました。当院でも昨年は10名のうち9名の前期臨床研修修了医を送り出しました。今年も8名のうち7名の前期臨床研修修了医が巣立ちました。昨年同様に『壽』中断者が1名出ましたが、今年4月から初期研修後半を開始しました。

全員が沖縄県に留まる訳では有りませんが、ささやかながら沖縄県の医療界に貢献しているのではないかと自負しております。それには指導医の先生方や看護師さん達をはじめ多くの医療スタッフや事務職員の皆さんの支援・協力無しには成し遂げられない事です。また地域の開業医の先生方、近隣医療機関の先生方の温かい

支援もなくてはならない特筆すべきものです。

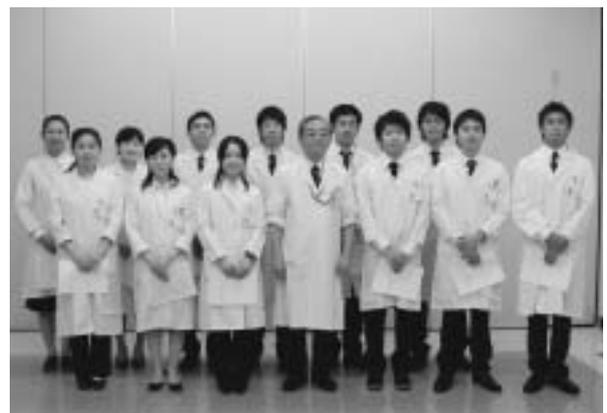
現在、3期生8名に2期生の未修了者（初期研修後半）1名が加わり9名プラス新しい前期臨床研修医12名で、研修医21名が院内を蠢いております。若い研修医の活気ある澁刺とした仕草と患者さんに対する真剣な眼差しを身近で観ておりますと、研修医として入局した頃のことを思い出し、私達も元気にならざるを得ないと同時に身の引き締まる思いがします。

初期研修をキチンと修得し、周りの方々との協調性を大切に、患者さんへの心配りができる人間味豊かな温かみのある医師に育てて頂きたいと願っています。それには大先輩の先生方の温かい御支援と御鞭撻が一層必要です。前期臨床研修修了医に、そして新臨床研修医に温かいエールを贈って頂ければ幸いです。



那覇市立病院前期臨床研修修了者（2期生）7名

左から、吉田祥子（東京女子医大麻酔科）、中本英俊（東京女子医大脳神経外科）、小室彰男（済生会横浜市東部病院内科）、幸地 勇（新日鉄津製鉄所健康管理センター）、喜友名翼（那覇市立病院内科）、喜瀬美智子（那覇市立病院脳神経外科）、川野尚子（琉大皮膚科）；敬称略、（ ）内は赴任先



那覇市立病院臨床研修医採用者（4期生）12名

前列左から、仲西由希子（近畿大医）、宮城 葵（琉大医）、親川真帆（高知大医）、與儀實津夫院長、座間味 亮（琉大医）、大平哲也（琉大医）、佐久間淳（琉大医）

後列左から、中澤明里（琉大医）、古波蔵都秋（久留米大医）、今給黎亮（鹿児島大医）、上里 迅（近畿大医）、佐々木高信（琉大医）、喜瀬高庸（琉大医）；敬称略、（ ）内は出身大学